



◆生育状況について

果実肥大は順調に進んでいるが、結実が良く摘果が遅れている園は、やや小さい。
梅雨に入り、高温やまとまった雨などがあり、すでに日焼け果の発生も散見される。

◆当面する重点作業について

1. 見直し摘果を実施し、品質向上を図る。
2. 新梢管理、支柱立て、誘引等を実施し、園内の風通しと明るさを確保する。
3. 病虫害防除の徹底をする。

◆りんご栽培日誌の提出について

りんご出荷予定の方は期日まで提出されますようご協力下さい。

1. 提出要領:7月21(月)までに地区役員さんまで提出して下さい。

※役員さんは7月22日(火)までに各流通センター・共選所まで提出して下さい。

※各個人より、各流通センター・共選所まででも結構です。この場合、役員さんに直接持って行く事を連絡して下さい。

2. 留意事項

①今回提出用の栽培日誌を配布いたしますので、記入不備の無いよう注意下さい。

②第9回防除まで記入して下さい。

③日誌をチェックし法的に問題がある場合は、荷受けはできません。

④日誌を提出せずに出荷した場合は、日誌提出並びにチェックを受けるまで、荷受・選果・販売はできません。

◆ナシヒメコンの使用について

ナシヒメコン使用の場合は第2回目の取り付け（50本／10aあたり）を7月末までに行う。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：7月9日(水)～13日(日)

2. 調合量：水100ℓ当り ※混用順に記載。 散布日 月 日

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10ml	—	—
ダニゲッターフロアブル	50ml	ハダニ類	前日
ⓂイカズチWDG	66g	キンモンホリガ・シクイムシ類・ハマキムシ類	前日
キノンドー顆粒水和剤	100g	斑点落葉病・褐斑病・輪紋病	14日
オーソサイド水和剤80	125g	炭そ病・黒星病	前日

3. 散布量：10a当り⇒600ℓ以上

4. 留意事項

①7月下旬より収穫する品種（祝・人着つがる）は、収穫前規制のため早め実施するか、キノンドー顆粒水和剤を抜いて、実施する。また、8月より収穫のシナノリップ等も注意し、遅れないよう実施する。

②通常展着剤に代えて、ササラ3,000倍（水100ℓ当り33ml）を使用すると、濡れ性・乾きが向上し、汚れが軽減される。

③イカズチWDGに代えて、Ⓜスカウトフロアブル2,000倍（水100ℓ当り50ml）を使用してもよい。

④ダニゲッターフロアブルは、水稻の開花期に飛散すると不稔を生じるため、注意する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

1. 対策時期：継続して月に1回程度
2. 使用資材：

資材名	倍率	1000g当り使用量
ストピットⅡ	500倍	200g
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

3. 注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆かん水・排水対策について

1. 降雨が無い場合は、20mm程度の定期的なかん水を行う。
2. 降雨が多い場合は排水対策を行い、根腐れを防ぐ。
特に、高密植（新わい化）栽培は滞水に弱いので園や葉が黄色くなって落葉している園では注意する。

◆園地の除草対策について

1. 草は短く切り水分の競争を防ぐ。なお刈りすぎて土が見えるようでは逆に水分が蒸発してしまい樹体や果実に影響が出やすいので注意する。
2. 除草剤を使用する場合は使用基準・使用回数・収穫前規制に注意する。
また早生種の収穫時期となっているので注意する。
3. 殺ダニ剤を散布する3～5日前に草を刈り取るか、除草剤を散布すると防除効果が高い。
ハダニを樹上に上げてから殺ダニ剤は散布する。根元のヒコバエも処理し薬剤がかかるようにする。殺ダニ剤散布後の除草剤使用や、草を刈り取ると事後の発生が多い。
4. ダニ剤が入る以外の時期では、梅雨の最中のため余分な水分を除き根腐れ防止のために、草はできるだけ長く伸ばすとよい。

◆落果防止剤ストップール液剤の散布について

1. 高温乾燥条件では効果が低下しやすいため、散布2～3日前にかん水を実施する。
2. 1回散布とする。2回散布は過熟になりやすい。
3. 手散布で果実及び果そう葉を中心に丁寧に散布する。
4. 定期散布とは1日以上間隔を空ける。
5. 散布後4時間は雨に合わない（30分以内で乾く）状態で散布したい。ただし、高温の日中は、葉面の気孔等も閉じ吸収効率が悪いので散布しない。
6. 他の品目・品種にかからないように充分注意する。薬害の発生。
7. ストップールは登録上では収穫7日前まで散布は可能だが、効果を上げるためには収穫15日前までに散布する。
8. わい化樹は熟度が5～7日進む。また系統によっても着色差を生じる。
9. **シナノリップは落果防止剤の散布をしない。**
落果防止剤を散布すると過熟（ボケ）やすくなり商品価値が落ちる。着色しない・食味が乗らないうちに過熟になりやすくなる。他から飛散してこないように注意する。

◆「夏あかり」落果防止剤散布について

1. 散布時期：満開80日後頃（7月13日前後）。

平地 7月6日（土）～12日（金） 散布日 月 日

2. 使用薬剤：水1000当り 展着剤は加用しない。

農薬名	使用量	収穫前
ストップール液剤	66ml	25～7日前まで

3. 散布量：10a当り⇒5000

◆果実への日焼け防止対策について

- ①無理な葉摘みをしない。特に西日の当たる所、着果が斜めになっている果実
- ②白い寒冷紗の設置。※前回情報参照。
- ③葉摘みの前にかん水を行い、園地を冷やし、果実に十分な水分を与えておく。

◆新梢管理・樹体への日焼け対策について

1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）

は、焼けが発生しやすく、全部欠き取るのではなく、30cm

に1本位で千鳥に残す。特に北～東方向の骨格枝は発生しやすい。

⇒ 計画的に切り（欠き）取る。

2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの

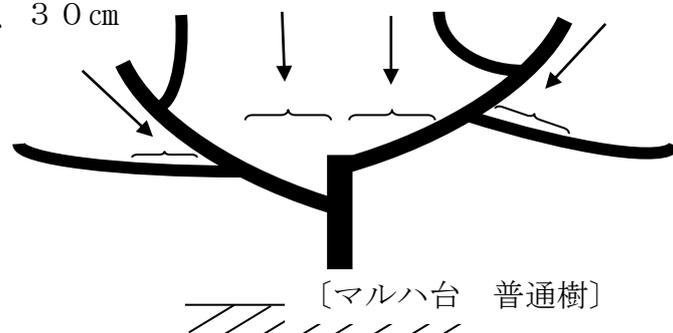
時期切らずに無駄な養分を発散させる。

お盆の頃に切り取る。

3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝（新梢）の

処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。

4. 図の矢印部分（主枝・亜主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆早生品種の鳥害・ヤガ対策について

1. 基本的には、防鳥ネットを張り、鳥害・ヤガ害を防ぐ。また糸等を工夫して利用する。

2. 被害にあった果実を取り除き、呼び寄せないようにする。

3. 鳥害には、鳥よけ爆音機やバードガードを使用する。使用する場合は周辺の環境に留意する。

特に、住宅地付近での使用や早朝・夜遅くの使用はしない。住宅地より200m以上離れた場所で使用する。

4. ヤガは山手で夜温が高いと発生する。対策として、ネット設置やヤガ除けライトなどを使用する。

◆シナノリップの管理について

特に果実に日光が当たらないと、着色が難しい品種。日焼けに注意しながら、管理を実施する。

1. 着色管理

①枝で混んでいる場合は、内部に日光が入るように不要な枝を軽く切る。誘引・支柱を行う。

下枝や内部の日光の当たらない果実は、葉摘み等しても着色しない。

②高温や強い日差しで、日焼けが発生するため、注意が必要。

③前述の「果実への日焼け防止対策について」も参考にする。

④葉摘み

・梅雨明け後は、特に高温になるため、梅雨の間に実施する。

・時期の目安は、7月上～中旬。

・果実に密着している葉を摘む。摘み過ぎは、日焼け発生や着色低下につながる。果実温が高くなった、日中に行う。(早朝は実施しない)

明らかに日焼けになりそうな部位は、無理をして葉摘みはしない。

2. その他管理

①心カビ発生があるため、早期に着色・地色の抜けが早い果実は、除去する。

②シンクイムシ類の被害が多い品種のため、薬剤散布間隔や散布ムラのないよう注意し、被害果は早期に除去し処分する。

③鳥害被害が多い品種のため、必要な対策を実施する。